



進路だより



H30年度 1月号

～ 大学入試について ～

インフルエンザやノロウイルスが全国的に流行する季節になりました。インフルエンザ、ノロウイルスに限らず、感染症の最高の予防法は「手洗い、うがい」です。可能な限り実践しましょう。

3年生はいよいよ大学入試センター試験が今週末にあります。その後、自己採点による得点を参考に自分の受験先を決めなければなりません。二次試験や私立大入試のための勉強と並行してしっかりと大学を調べ、担任の先生や保護者の方ともよく相談しながら、納得のいく選択をしてください。

1・2年生はセンター試験までそれぞれ、あと2年・1年です。特に2年生は今学期を3年生0学期の意識で受験勉強を始めなければなりません。今まで受けてきた記述模試に加え、2月にはセンター早期対策模試が実施されます。この「進路だより」を参考にして、センター試験がどのような試験なのか理解してください。そして、公表されるセンター試験の問題にぜひ挑戦してみてください。

大学入試センター試験について

1. センター試験とは

センター試験は、毎年1月の中旬に2日間にわたって行われます。マークセンス方式で、基礎的な学力が問われるテストです。各大学は合否判定に利用する教科・科目と配点を事前告知するので、受験生は志望校に必要な科目を受験します。センター試験後には自己採点を行い、その結果から個別学力検査の出願先を決定します。

2. 受験者数について

2019年実施のセンター試験には、約58万人が出願しています。全国の高校生がライバルになる、とても大規模な試験です。

3. 日程と時間割について

2019年実施のセンター試験は1月19日(土)・20日(日)で、右のような日程・時間割となります。出題教科・科目は5教科*30科目で、実際に受験できるのは、数学2科目と地理歴史・公民2科目、理科2科目を含む、最大5教科8科目です。志望校の入試に合わせて受験します。現在、ほとんどの国立大で5教科7科目が課されており、教科のバランスが重視されています。また、外国語で英語を選択した場合、筆記試験に加えてリスニングテストが必須となっています。

※地理歴史・公民を合わせて1教科と数えています。

4. 出題形式・時間・配点について

センター試験はすべてマークセンス方式です。高校3年間の学習事項が出題の対象となり、すべて教科書の内容から出題されます。各教科の試験時間・配点は右の通りです。

【試験教科・時間】

| | | |
|-----|------------|--|
| 第1日 | 地理歴史 公民 | 2科目選択 9:30～11:40 ※1 1科目選択 10:40～11:40 |
| | 国語 | 13:00～14:20 |
| | 外国語 | 【筆記】15:10～16:30 【リスニング】英語のみ 17:10～18:10 ※2 |
| 第2日 | 理科① | 9:30～10:30 ※3 |
| | 数学① | 11:20～12:20 |
| | 数学② | 13:40～14:40 |
| | 理科② | 2科目選択 15:30～17:40 ※1 1科目選択 16:40～17:40 |

【1科目あたりの試験時間・配点】

| 教科 | 試験時間 | 配点 |
|----------------|-----------------------------|------|
| 国語 | 80分 | 200点 |
| 地理歴史 | 60分 | 100点 |
| 公民 | 60分 | 100点 |
| 数学 | 60分 | 100点 |
| 理科① (2科目選択) | 60分※3 | 100点 |
| 理科② | 60分 | 100点 |
| 外国語 | 【筆記】80分 | 200点 |
| | 【リスニング】英語のみ (解答時間) 30分※2 | 50点 |

※1 地理歴史及び公民並びに理科のグループ②の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行うが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は130分とする。

※2 リスニングは、音声問題を聞いて30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加え、試験時間は60分とする。

※3 理科のグループ①については、2科目を受験するものとし、1科目のみの受験は認めない。

<平成19年度大学入学者選抜大学入試センター試験実施要項より>

いよいよ入試本番間近。入試には耳慣れない用語や疑問も多いものです。
そこで、入試に関する疑問をQ&A形式で紹介するので、しっかり確認してください。

| | | |
|---|--|--|
| <p>Q. 1 もし事故や病気などでセンター試験が受験できなくなったら？</p> <p>A. 1 事故や病気などのアクシデントが起きた場合は、受験生本人または代理人が、速やかに「受験票」に記載されている「問い合わせ大学」に行き、申請すれば追試験を受けることができる。申請の受付時間、詳しい方法等については、受験票・写真票等と一緒に送付されている「受験上の注意」に明記されている。なお、2019年度大学入試センター試験の追試験は1月26日(土)・27日(日)に東京芸術大学と京都教育大学で実施予定。</p> | <p>Q. 2 センター試験の得点調整とは？</p> <p>A. 2 センター試験終了後、大学入試センターでは、各教科で選択科目ごとに平均点を算出する。その平均点に原則として20点以上の差が生じ、それが試験問題の難易差に基づくものと認められた場合には、平均点が低い科目を受験した受験生が不利にならないよう、得点差を調整する。なお、2019年度大学入試センター試験の得点調整実施の有無の発表は1月25日(金)の予定。</p> | <p>Q. 3 国公立大の出願はいつ行うのか？</p> <p>A. 3 国公立大の出願は1月28日(月)～2月6日(水)の間に行う(国際教養大・新潟県立大を除く)。出願する可能性のある大学の願書は、当然それまでに取り寄せておかねばならない。一方で、ネット出願のみとなっている大学も増加しており、各大学のHP等での確認が必要である。 また、出願校決定には、自己採点結果が唯一の手がかりとなる。確実な出願校決定のためには正確に自己採点することが重要だ。</p> |
| <p>Q. 4 「志願倍率」、「実質倍率」の違いとは？</p> <p>A. 4 ひと口に倍率といっても「志願倍率」と「実質倍率」の2種類がある。「志願倍率」とは、「志願者数÷募集人員」のことで、志願者とは実際に大学に出願した人のことだ。「志願倍率」では、その大学の人気度がわかる。一方「実質倍率」は、「受験者数÷合格者数」のことで、実際の試験での競争率がわかる数字だ。 出願はしたものの、試験当日までに第1志望校の合格が決まった受験生などは受験しない場合があり、「志願者数と受験者数が違う」といったことが起こる。また、入学辞退者を見込む大学は、募集人員よりも多めに合格者を発表するため「募集人員と合格者数が違う」ということも起こる。このように「志願倍率」と「実質倍率」では数値も意味も異なるので、単に「倍率」といった場合には、どちらの倍率を意味するのか注意が必要だ。</p> | <p>Q. 5 大学は何校まで出願できるか？</p> <p>A. 5 国公立大一般入試(一部異なる日程の大学があります)の場合は、前期・中期・後期の各日程から1つずつ、最大3つの大学・学部への出願が可能だ。また、私立大などは、試験日程が重ならなければ出願に制限はない。第1志望校を中心に、うまくスケジュールを立てて出願校を考えよう。</p> <p>Q. 6 「二段階選抜」とは？</p> <p>A. 6 一部の国公立大で行われる選抜方法のこと。個別学力検査の前にセンター試験の成績などにより第一段階選抜が行われ、合格者のみが個別学力検査を受験することができる。志望校が二段階選抜を行うかどうか確認しておこう。</p> | |